



1. 飛鳥期【1 齊明 天皇=皇極天皇が再び即位】

※一度退位した天皇が再び即位することを3 重祚 (ちようそ) という。史上2名でいずれも女帝。  
[図表P. 56①年表下]

☆中大兄皇子と孝徳天皇の対立が発生(?)。中大兄皇子たちは天皇を難波に残して飛鳥に移る。  
(支配領域の拡大事業)

◇658~660年 蝦夷征討(日本海側を攻め上る)←4 阿倍比羅夫 (あべのひらふ) による [図表P. 57⑤]  
(対外政策)

◇百済救援の失敗…663年 5 白村江 (はくそんこう) の戦いで唐・新羅連合軍に敗北 [図表P. 57⑥]  
※百済はすでに660年に滅亡。その翌年、日本は百済遺臣の要請を受けて出兵していた。

→この敗北は中大兄皇子の唐・新羅に対する防衛意識を高めることになった。大宰府の北には全長1kmの堤防で川をせき止めてつくった6 水城 (みずき) や、7 朝鮮式山城 (ちようせんしきやまじろ) が築かれた。  
※7 朝鮮式山城 は大宰府北方につくられた8 大野城 (おおのじよう) や南方の基肆城(きしい)から奈良県・高安城(たかやす)にいたるまで九州北部から瀬戸内を中心に11城が築かれた。さらに9 烽 (とがひ) とよばれる狼煙台(ろうし)も壱岐・対馬はじめ各地に設けられた。

2. 近江大津宮期

☆中大兄皇子は近江遷都の翌年に即位して10 天智 (てんじ) 天皇となる。  
(白村江の戦い以前の661年、戦闘準備中に齊明天皇が死去(崩御)したのちは実質的に中大兄皇子が政治を行っていた。このように、即位式をあげずに皇太子のまま政治を行うことを11 称制 (しょうせい) という。)  
[図表P. 56①年表下]

①668年 最初の 令 (りよう) である12 近江令 (おうみりよう) を制定した(といわれる)。

②13 670 年 最初の全国的戸籍・14 庚午年籍 (こうごねんじやく) を作成。  
~氏姓をただす根本台帳として重視。15 永久保存 (えうきほぞん) を義務づける。

(通常の戸籍は16 30 年(=「五比」)保存) [史料⑮]

※669年、中臣鎌足(なかとみ)の死に臨み、天智天皇は鎌足に大織冠(たいしよくかん)と17 藤原 (ふじわら) の氏を与えてこれまでの功に報いた。鎌足にはじまる藤原氏はこののち平安時代にかけて強大な権力者に成長してゆく。  
[大織冠=当時の最高冠位。与えられたのは中臣鎌足のみ。]

以前のプリントで動画『NHK10min ボックス日本史』を紹介しましたが、もう少し詳しく概要を復習したい人のために、30分番組を紹介します。『NHK高校講座日本史』で検索してみてください。番組名は昔から変わらず堅苦しげですが、構成はだいぶやわらかいものに変化しています。すでに習った範囲(理型だったら原始や近現代)の復習として使えば頭に入りやすいのではないかと思います。おすすめします。

◇ 図表 P. 57⑤ に阿倍比羅夫の北上ルートが記されています。ところで、古代史において教科書に登場する「あべ」の音を持つ氏はこの阿倍比羅夫や奈良時代の阿倍仲麻呂や平安時代の安倍頼時のように「あべ」の「べ」がにんべんの人ばかりですので漢字で書く際には気をつけてください。幕末ペリーが来航したときに対応する老中阿部正弘あたりからおおざとの「あべ」氏も登場してきます。

◇ 壬申の乱の際、大海人皇子が挙兵した場所は奈良県南部の吉野でした。はじめ大海人皇子は天智天皇の皇太子つまり後継者の地位にありました。ところが天智天皇の実子である大友皇子は成長するにつれ才能を発揮しはじめ、天智天皇は自分の後継として我が子をつけたいと思うようになりました。そのような中、天智天皇が病の床につきます。死を意識し始めた天智天皇は自分が死んだあとの大友皇子が心配でなりません。そこで弟大海人皇子を試すことにしました。天智は大海人をよび、「私の命も長くない。私が死んだあとはおまえにまかせるゴホゴホ。たのんだぞケホケホ」とかいいます。それに対し大海人が「わかりました！わたしにおまかせください！！」などと力強く宣言でもしようものなら、我が子にとって危険な存在と判断して殺そうと天智は思っていました。勘の鋭い大海人は次のように答えます。「とんでもありません。あなたには大友皇子がいるのではないですか。もしものときはあなたの奥さんが天皇を継ぎ、そして大友皇子へ位を譲ればいいでしょう。私は出家して田舎でのんびり暮らします。」と。安心した天智天皇は大海人皇子の出家を許し吉野へ出発させました。その姿を見て朝廷の人々は「虎に翼をつけて野に放つようなものだ…」と口々につぶやいたといひます。